

区分・種別	県指定有形文化財(工芸品)		
名 称	おおだち めい せきしゅうかずさださく 大太刀 銘 石州和貞作		
所 在 地	今治市大三島町宮浦		
所 有 者	宗教法人大山祇神社	管 理 団 体	
指定年月日	令和6年2月16日		
解 説	刃長171.8cm 反り3.5cm、莖長91.7cmを測り、^{しのぎ}鎬造、^{いおりむね}庵棟、反り浅く、身幅広く、大鋒。生ぶ^{なかご}莖で、莖先に目釘孔が1つ。地鉄は小板目がよく約んで地肌は精美となり、地沸つき、僅かに白け、鉄色は黒味掛かる。刃文はやや腰開きの^く互の目が連れて尖り刃や丁子刃を交じえ、厚く沸づき、匂口は沈みごろで、所々砂流しとなる。帽子は互の目に乱れ込んで返る。表裏に丸留に添樋を伴う棒樋がある。 作者の和貞は、現在の島根県西部にあたる石見国の石州派貞綱の系譜と伝え、室町時代中期に活躍した刀工である。 本作は、非常に長大な大太刀であるが、太刀姿の刀身に長い莖をともなった形状を呈しており、長巻が作製されるに至る過渡期的なものと考えられる。^{はばき}鋺元に57cmに亘る生ぶ刃が残って、しっかりとした刃区があり、錆による朽ちこみが見られるものの、刀身は極めて健全で、鉄製の共鋺が付属している。 石州派の数少ない在銘資料であり、ほぼ製作当時のままで現存するものは稀で工芸史的にも貴重である。江戸時代中期の宝物帳の記録があり、歴史的に重要な資料として評価できる。		

